

令和4年（西暦2022年）8月10日
たねと食とひと@フォーラム 御中

米澤製油株式会社
代表取締役 森田政男

公開質問「食用油の原材料について」へのご回答

2022年7月29日付で弊社へ頂いた貴会公開質問の件、以下のとおり回答いたします。

質問① 貴社製品原材料の原産国、非遺伝子組み換え原材料の分別状況についてお答えください。

【回答】

- 原産国 : 日本・オーストラリア
- 分別状況 : 分別管理済

質問② 産地から貴社製造工場までの原材料の管理・輸送方法について、お答えください。

【回答】

- 産地の受入施設への搬入時にトラック毎に品質検査を行い、保管サイロにて分別保管。海上コンテナにて船便で日本に出荷。日本での通関後は、委託している倉庫会社で専用設備を用いてフレコンバッグに詰め替えて保管。その後、トラックで弊社工場の原料倉庫に移送。なお、上記の間、IPハンドリングを実施。

質問③ 原料トレーサビリティについて

【回答】

- 主原料の入荷記録の保存 : 有
- 主原料の出荷記録の保存 : 有
- 製造ロットと入出荷ロットの対応付け記録の保存 : 有

質問④ 非遺伝子組み換えの原材料を使用している製品に関して、今後、遺伝子組み換えのものに変更する予定はありますか。予定の有無とともに、その理由もお答えください。

【回答】

- 変更する予定はありません。弊社は「安全が確認できないものは使わない」という方針であるところ、遺伝子組み換えの原材料は現状では100%安全だとは言い切れないと考えているからです。

質問⑤ 遺伝子組み換えでない原材料の入手にかかわる状況は、昨年度と比べて変化はありますか。

【回答】

- 需要が増加しているものと思われ、昨年度と比べると価格は高騰しています。

質問⑥ 消費者のなかには、遺伝子組み換えでない原材料を求める声もあります。今後、遺伝子組み換えでない原材料の製品を供給し続けるためには、どのような課題があるとお考えですか。

【回答】

- 非遺伝子組み換え作物の生産を絶やさないためには、遺伝子組み換え作物よりも十分に高い価格でこれを購入することによって、生産者に非遺伝子組み換え作物を作付けする動機を与える必要があると考えます。そのためには、消費者には当該商品が一般の商品よりもある程度高い価格となることを許容していただく必要があります。デフレが長期間継続し、価格の安い製品が比較的重宝される環境下ですが、消費者の方々にこれをご理解・ご納得いただくことが課題であると考えます。

質問⑦ ゲノム編集由来の原材料が入手できるようになった場合、使用しますか。

【回答】

- いいえ（理由：現段階では弊社自身がゲノム編集作物の安全性や生物多様性への影響を深く理解できていない状況です。このような段階で弊社がこれを利用することは避けるべきであると考えます。）

質問⑧ ゲノム編集由来の原材料を使用する場合、表示をされますか。

【回答】

- はい（理由：新技術を用いて開発された原材料の使用に不安を感じたり、心情として嫌だと感じたりする消費者が多いと思われることを考慮すると、その表示は消費者が食品を選択するに当たって有益な情報であると考えます。）

以上